

平成26年度

第3回さいたま市花とみどりのまちづくり審議会

議事録

日時 平成27年 1月23日(金)
13時30分 から 15時30分 まで

場所 浦和コミュニティセンター 第13集会室

出席者 会長 柳井 重人
委員 坂田 澄代
委員 堀江 典子
委員 八木澤 順治
委員 中澤 佑子
委員 長澤 義則
委員 池上 憲二
委員 黒岩 修
太田 久(委員 能勢 和彦 代理)

事務局 都市計画部長、みどり推進課長、
見沼田圃政策推進室長、三角係長、町田係長、
串田主幹、船本主事

■ 平成26年度第3回さいたま市花とみどりのまちづくり審議会 議事録

平成27年1月23日(金) 13:30~15:30

発言者	意見内容
議題 さいたま市緑の基本計画後期アクションプランの策定について	
事務局から、さいたま市緑の基本計画後期アクションプランについて、資料1に基づき説明	
長澤委員	9ページで、緑化地の数値が平成32年度のほうが平成25年度よりも少なくなっているのはなぜか。
事務局	<p>緑化地については、平成18年度の計画策定時には街路樹等を対象としていなかったため数値に入れていなかった。その後、平成22年度に実施した緑被現況調査における調査結果の数値を盛り込んだため、現状値が大幅に増えたかたちとなっている。したがって平成32年度までに数値を減らすのではなく、当然増やしていくことになる。</p> <p>なお、平成32年度の目標年次の数値は緑の基本計画に位置づけているものであるため、変えていない。</p>
長澤委員	街路樹については、電線の地中化に伴い増やしてほしいと考えている。
事務局	<p>これまでは道路部局に対して緑のまちづくりという観点から街路樹の維持管理等についての働きかけが足りなかった。</p> <p>今後、新規事業として街路樹や公園の樹木など「公共用地における樹木等の管理ガイドライン」を策定することとしている。その中に街路樹の管理上のルールなどを盛り込んでいきたいと考えている。</p>
長澤委員	緑の基本計画の冒頭(8~11ページ)には、緑の役割(必要性)に関する記載がある。後期アクションプランにも同様に緑の役割(必要性)に関する記載を盛り込んでどうか。
事務局	今回策定するのは後期アクションプランであり、もちろん緑の基本計画を踏まえた内容となっている。したがって導入部分については、骨格的な部分のみを抜粋したかたちで記載している。
柳井会長	9ページの表の緑化地の数値であるが、この数値から街路樹等の434haを差し引くと、平成18年度と比較して平成25年度の数値はほとんど増えていないということになる。
事務局	実際には、あまり増えていないということである。
柳井会長	緑の役割の記載に関しては1ページの下の写真に替えて、図とともに入れることが考えられる。
堀江委員	9ページの表では、街路樹等の項目を別に設けたほうがよいのではないか。
柳井会長	平成18年度の欄では未計測として空欄にした上で、平成25年度の欄を2段で整理することも案としてよいのではないかと思います。
事務局	再度検討したい。
堀江委員	13ページに記載の市民意識調査の結果は以前よりわかりやすくなったが、「自然が豊か」という項目の数値があまり変化がないのに対し、「ス

発 言 者	意 見 内 容
	<p>ポーツ」に関する項目が伸びている。5年後に東京オリンピックの開催が控えていることもあるが、今後はより一層スポーツに対する関心が高まっていくと考えられる。</p> <p>この後期アクションプランには、「スポーツ」や「レクリエーション」に関する記載があまりないが、緑の中で行うスポーツは豊かさを実感しやすいと思う。何らかのかたちで「スポーツ」や「レクリエーション」と関連した緑のまちづくりについて、盛り込むことができるとよい。</p>
事務局	<p>現在、サイクリングロードの構想を検討しているところであるが、今回の後期アクションプランに盛り込むほど具体化はしていない。</p> <p>しかし着実に進める方向にはあるので、関係部署と連携して取り組んでいきたい。</p>
長澤委員	<p>緑は「防災」の視点からも重要である。16ページに「防災」に関する記載はあるが、「防災」の重要性に関してより強調していく必要があるのではないか。</p>
事務局	<p>「防災」について、市は強く意識しており、「防災」に特化した別のアクションプランで施策を進めている。</p>
柳井会長	<p>これまでの意見をまとめると、都市公園の整備などをはじめとした緑のまちづくりが「スポーツ」「レクリエーション」さらに「防災」などにつながっていくが、その記載がやや足りないと思われる。緑の役割については、1ページに位置づけることがよいかと思う。</p> <p>また、17ページに「身近に実感できる緑の創出」と記載があるが、ここでの実感は、緑の「魅力」や「価値」を実感することであり、緑が近くに存在すればよいというものではない。</p>
池上委員	<p>15ページの記載はアクションプランとしてはやや物足りない。「評価」というよりも「事実」である。評価というのは、本来進めるべきものであったが、こういった要因により達成できなかったということを分析して書くべきものである。</p> <p>また9ページの表では達成率が81.7%となっているが、計画策定時から数値としてはほとんど増えていない。10ページの「都市公園を市民1人当たり10㎡以上確保します」も同様に、目標には遠く及ばない状況である。これをどこまで「評価」として記載するかは難しいところであるが、こういった分析結果を記載してこそ「評価」である。</p>
八木澤委員	<p>全体的に見て、現在こういった課題があり、その課題を解決するために後期アクションプランではこうしていきたいという方向性が見えにくいと感じた。</p> <p>また10ページの「都市公園を市民1人当たり10㎡以上確保します」の目標達成に向けた見通しはどのように考えているのか。</p>
事務局	<p>人口増と用地の確保の面から、目標達成は難しいと考えている。この目標を達成することを最優先に、やみくもに公園整備を進めるというよりも、身近な範囲に適正な配置を考慮しながら整備していくことに軸足を移しつつある。したがって、この数値目標の達成だけを目的として公園整備を進めているわけではない。</p>

発言者	意見内容
八木澤委員	この緑の目標水準で掲げている指標を変更することはできないのか。
事務局	<p>この指標は緑の基本計画で掲げているため、今回の後期アクションプランでは変更しないが、次の緑の基本計画の策定の際には見直すことになると思われる。</p> <p>後期アクションプランでは単に数値としての緑の量だけでなく、「身近に実感できる緑」を創出していくという方向性を設定したが、こういったことも踏まえて次の緑の基本計画の策定につなげていきたいと考えている。</p>
池上委員	これからは市街地の緑（身近な場所にある緑）に重点を移していくということが伝わればよいと思う。
事務局	時間的な制約もあるが、可能な範囲で検討したい。
黒岩委員	<p>15ページは「評価」というよりも「事実」であり、緑の基本計画の計画期間の中間時点での「推進状況」としたほうがよいのではないかと。</p> <p>また、17ページの「視点1」は情報発信ということで理解できるが、「視点2」は具体的な事業を進める際に、どのように取り組んでいくのか、ややイメージしにくいと感じた。</p>
柳井会長	<p>各所管課によるアクションプラン事業の進捗状況については、毎年、本審議会でチェックすることになるが、その際にこの「2つの視点」という考え方を踏まえた上で、各所管課がどのように各事業に取り組んでいるのか、またみどり推進課がどのような方法で各所管課に対して意識づけを図っているか確認していくことになるかと思う。</p> <p>以上の意見を踏まえ、時間の制約もあり、修正できる部分とそうでない部分等あるかと思うが、これからの作業は事務局にお任せしたい。</p> <p>ただし、今回の後期アクションプランの内容に盛り込むことができなかったとしても、これまで本審議会が出たさまざまな意見はどれも大変貴重なものであり、後期アクションプランを実行していく中で、あるいは、次の緑の基本計画の策定の際にぜひ活かしていただきたい。</p>
報告事項 目指せ日本一!サクラサク見沼田んぼプロジェクトの取り組みについて	
事務局から、目指せ日本一!サクラサク見沼田んぼプロジェクトの取り組みについて、資料2に基づき報告	
堀江委員	桜の樹種は「ソメイヨシノ」以外にも何かあるのか。
事務局	既存の桜は「ソメイヨシノ」がほとんどであるが、それ以外の時期にも楽しめるように「エドヒガンザクラ」「カンヒザクラ」「ミヤビザクラ」「ヤマザクラ」「オオシマザクラ」の5種類がある。
堀江委員	<p>できるだけ長い期間楽しめるとうい。また、桜だけでなく花などを植えるとより美しくなり楽しめる。</p> <p>このプロジェクトのPRは、東京オリンピックの開催などにより、これから多くの外国人が訪れると思われるので、ぜひ多言語でお願いしたい。英語の案内は見かけるが、それ以外の言語の表記はまだまだであると感じる。</p>

発 言 者	意 見 内 容
	<p>また、桜の名所と呼ばれるところであっても、何十年と時が経つにつれて枯れてしまい、残念な状況になっている事例もある。見沼たんぼの桜はそういったことのないよう長期的な視野を持って、計画的な育成・維持管理を考えてほしい。</p>
事務局	<p>市民の皆さんに桜の生育を見守ってもらうというサポーター制度などを検討していき、それを勉強会や清掃活動などのイベントなどにつなげていきたいと考えている。</p>
柳井会長	<p>桜はいつごろから植えているのか。また、桜の維持管理について樹木医などに見てもらっているのか。</p>
事務局	<p>新しいもので平成元年頃に植えている。それ以前のものであると30年あるいは40年以上前に植えたものもある。今後のことを考えると近いうちに更新のタイミングを考える必要があると思っている。 生育状況としては比較的健全な状態である。</p>
黒岩委員	<p>寄附金はどのように活用されているのか。</p>
事務局	<p>寄附金は基本的には植樹に活用しているが、ベンチ等の休憩施設の環境整備にも活用していく予定である。なお、5万円以上寄附いただいた方には名入れをした記念プレートを作成し設置している。</p>
長澤委員	<p>桜は樹形として横に伸びるので、剪定の問題があり街路樹には向いていない。</p>
<p>(15時30分 終了)</p>	